



# 奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

5月号

## 学校教育目標

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘

- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

## 体験活動から得られるもの

校長 岩崎 健治

新緑がまぶしい季節となりました。子どもたちが元気に登校してくる姿を見ていると、自然と笑顔になります。

1年生を新たに迎え、「なかよし遠足」（全校遠足）に向けて、なかよし活動（縦割り活動）が始まりました。それぞれのグループが6年生を中心に、仲よく過ごし、下級生にいろいろなことを丁寧に教えている姿がほほえましく思えます。6年生は「1年生を迎える会」の前からリーダーシップを発揮し、朝の準備の手伝いをしたり、給食の後片付けの手伝いをしたりしてかかわりをもっていました。

「1年生を迎える会」では、1年生は、2年生から朝顔の種とメダルをもらって、笑顔いっぱいになりました。《今年も咲いた鮮やかなサツキツツジ》

5月からは「なかよし遠足」や6年日光修学旅行、5年御殿場体験学習、4年愛川体験学習など様々な体験活動が始まります。人や物事にかかわること、実際にやってみること、試してみることは、子どもたちにとって手ごたえのある学びにつながっていきます。

行事の中の体験活動に限らず、日常の学習でも、体験的な活動を取り入れて学ぶことは、人や物事とのかかわりが生まれ、感情を伴いながら実感的に物事を理解していく姿が見られ、成長へとつながっていきます。新たな発見や思考を呼び起こすことで、次の学習へと発展していく「気付き」も出てきます。

このような力を育むためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が大切であるといえます。子どもたちは、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら、「なぜ、どうして」と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいきます。そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通じて、自らを高め、よりよい生活を創り出していくことができるのだと考えます。体験は子どもたちの成長の糧となり、生きる力を育む基礎となります。体験活動から様々な学びを得ることで大きく成長していくことを期待しています。

今後も、安全・安心、健康を第一に考えて今できる可能な限りの体験活動をする機会を工夫してつくっていきたいと考えています。また、保護者の皆様の見守りや様々な方々と温かくかかわること、子どもたちは、より豊かに学ぶことができているのだと思います。

コロナ禍の中、様々な行事や体験活動に、ご理解とご協力をいただいていることを心より感謝申し上げます。今後とも保護者の皆様、地域の皆様方のご理解と温かい支援を何卒、よろしくお願いいたします。

